



## 診断の実行

Catalyst 4500 シリーズ スイッチの診断では、ライブ ネットワークに接続しながら、ご使用のシステムのハードウェア コンポーネント（シャーシ、スーパーバイザ エンジン、モジュール、および Application Specific Integrated Circuit (ASIC; 特定用途向け集積回路)）の機能をテストし、検証できます。診断では、ハードウェア コンポーネントをテストして、データ パスおよび制御信号を検証するパケット スイッチング テストが行われます。

オンライン診断は、起動時診断、オンデマンド診断、スケジュール診断、またはヘルス モニタリング診断に分類することができます。起動時診断は、起動中に実行されます。オンデマンド診断は、CLI から実行されます。スケジュール診断は、スイッチがライブ ネットワークに接続されている場合に、ユーザが指定した間隔または指定した回数で実行されます。ヘルス モニタリング診断は、バックグラウンドで実行されます。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「オンライン診断の設定」 (P.59-1)
- 「診断の実行」 (P.59-2)
- 「POST 診断」 (P.59-8)



(注)

この章のスイッチ コマンドの構文および使用方法の詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Command Reference*』および次の URL の関連マニュアルを参照してください。

<http://www.cisco.com/en/US/products/ps6350/index.html>

## オンライン診断の設定

ここでは、オンライン診断を設定する方法について説明します。

- 「オンデマンド オンライン診断の設定」 (P.59-1)
- 「オンライン診断のスケジューリング」 (P.59-2)

## オンデマンド オンライン診断の設定

オンデマンド オンライン診断テストは、CLI から実行できます。障害が検出された場合に、テストを停止または継続するよう、または、障害カウント設定で、特定回数の障害の発生後にテストを停止するよう、実行アクションを設定できます。反復設定を使用すると、テストが複数回数実行されるよう、設定できます。

オンライン診断をスケジューリングするには、次の作業を行います。

コマンド	目的
Switch# <b>diagnostic ondemand</b> { <b>iteration</b> <i>iteration_count</i> }   { <b>action-on-error</b> { <b>continue</b>   <b>stop</b> } [ <i>error_count</i> ]	オンデマンド診断テストを実行すること、および、その実行（反復）回数と、エラー検出時に行われるアクションについて、設定します。

次の例では、オンデマンドテスト反復回数を設定する方法を示します。

```
Switch# diagnostic ondemand iterations 3
Switch#
```

次に、エラーが検出された場合の実行アクションを設定する例を示します。

```
Switch# diagnostic ondemand action-on-error continue 2
Switch#
```

## オンライン診断のスケジューリング

オンライン診断は、1日のうち指定した時間、毎日、毎週、または毎月実行するよう、スケジューリングできます。テストは、一度だけ実行するようスケジュールすることも、一定の間隔で繰り返すようスケジュールすることもできます。スケジューリングを削除する場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

オンライン診断を設定するには、次の作業を行います。

コマンド	目的
Switch(config)# <b>diagnostic</b> <b>schedule module</b> <i>number</i> <b>test</b> { <i>test_id</i>   <i>test_id_range</i>   <b>all</b> } [ <b>port</b> { <i>num</i>   <i>num_range</i>   <b>all</b> } { <b>on</b> <i>mm dd yyyy hh:mm</i> }   { <b>daily</b> <i>hh:mm</i> }   { <b>weekly</b> <i>day_of_week</i> <i>hh:mm</i> }]	特定の日に特定のモジュールでオンデマンド診断テストを実行すること、および、その実行（反復）回数と、エラー検出時に行われるアクションについて、スケジューリングします。

次の例では、モジュール 6 の指定されたポートに対して診断テストを行うようスケジューリングする方法を示します。

```
Switch(config)# diagnostic schedule module 6 test 2 port 3 on may 23 2009 23:32
Switch(config)#
```

次の例では、毎日診断テストを行うようスケジューリングする方法を示します。

```
Switch(config)# diagnostic schedule module 6 test 2 port 3 daily 12:34
Switch(config)#
```

次の例では、毎週診断テストを行うようスケジューリングする方法を示します。

```
Switch(config)# diagnostic schedule module 6 test 2 port 3 weekly friday 09:23
Switch(config)#
```

## 診断の実行

オンライン診断の設定後、診断テストを開始または停止したり、テスト結果を表示したりすることができます。どのテストが設定され、どの診断テストがすでに実行されたかも、参照できます。

ここでは、それらの設定後にオンライン診断テストを実行する方法について説明します。

- 「オンライン診断テストの開始と停止」 (P.59-3)
- 「オンライン診断テストとテスト結果の表示」 (P.59-4)
- 「ラインカード オンライン診断」 (P.59-6)
- 「オンライン診断によるトラブルシューティング」 (P.59-7)



(注)

オンライン診断テストをイネーブルにする前に、ロギング コンソールをイネーブルにするか、または、すべての警告メッセージを参照します。



(注)

中断を伴うテストを実行する場合、コンソールを介して接続している場合にのみ実行してください。中断を伴うテストの完了後、コンソール上の警告メッセージにより、システムをリロードし、通常操作に戻るよう、推奨されます。この警告に従ってください。

## オンライン診断テストの開始と停止

診断テストの設定後には、**start** キーワードおよび **stop** キーワードを使用すると、テストを開始または終了することができます。

オンライン診断コマンドを開始または停止するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
Switch# <b>diagnostic start module</b> <i>number test {test_id   test_id_range   minimal   complete   basic   per-port   non-disruptive   all} [port {num   port#_range   all}]</i>	指定したモジュールのポートまたはポート範囲で、診断テストを開始します。
Switch# <b>diagnostic stop module</b> <i>number</i>	指定したモジュールで診断テストを停止します。

次の例では、モジュール 6 で診断テストを開始する方法を示します。

```
Switch# diagnostic start module 6 test 2
Diagnostic[module 6]: Running test(s) 2 Run interface level cable diags
Diagnostic[module 6]: Running test(s) 2 may disrupt normal system operation
Do you want to continue? [no]: yes
Switch#
*May 14 21:11:46.631: %DIAG-6-TEST_RUNNING: module 6: Running online-diag-tdr{ID=2} ...
*May 14 21:11:46.631: %DIAG-6-TEST_OK: module 6: online-diag-tdr{ID=2} has completed
successfully
Switch#
```

次の例では、モジュール 6 で診断テストを停止する方法を示します。

```
Switch# diagnostic stop module 6
Diagnostic[module 6]: Diagnostic is not active.

The message indicates no active diagnostic on module 6
```

## オンライン診断テストとテスト結果の表示

**show diagnostic** コマンドを使用すると、設定されているオンライン診断テストを実行し、テスト結果をチェックできます。

設定されている診断テストを表示するには、次の作業を行います。

コマンド	目的
Switch# <b>show diagnostic</b> { <b>bootup</b>   <b>cns</b>   <b>content</b> [module num]   <b>description</b> [module num]   <b>events</b> [module num] [event-type event-type]   <b>ondemand</b>   <b>result</b> [module num] [detail]   <b>schedule</b> [module num]   <b>simulation</b>   <b>status</b> }	オンライン診断のテスト結果を表示し、サポートされるテストスイートの一覧を表示します。

次の例では、モジュール 1 に設定されているオンライン診断を表示する方法を示します。

```
Switch# show diagnostic content module 6
module 6:
Diagnostics test suite attributes:
  M/C/* - Minimal bootup level test / Complete bootup level test / NA
  B/* - Basic ondemand test / NA
  P/V/* - Per port test / Per device test / NA
  D/N/* - Disruptive test / Non-disruptive test / NA
  S/* - Only applicable to standby unit / NA
  X/* - Not a health monitoring test / NA
  F/* - Fixed monitoring interval test / NA
  E/* - Always enabled monitoring test / NA
  A/I - Monitoring is active / Monitoring is inactive
  cable-tdr/* - Interface cable diags / NA
  o/* - Ongoing test, always active / NA
Test Interval  Thre-
ID  Test Name                               Attributes          day hh:mm:ss.ms shold
====
  1) linecard-online-diag -----> M**D***I**      not configured  n/a
  2) online-diag-tdr -----> **PD***Icable- not configured  n/a
```

次の例では、モジュールで設定されているテストのテスト説明を表示する方法を示します。

```
Switch# show diagnostic description module 6 test 1

linecard-online-diag :
  Linecard online-diagnostics run after the system boots up but
  before it starts passing traffic.  Each linecard port is placed in
  loopback, and a few packets are injected into the switching fabric
  from the cpu to the port.  If the packets are successfully
  received by the cpu, the port passes the test.  Sometimes one port
  or a group of ports sharing common components fail.  The linecard
  is then placed in partial faulty mode.  If no ports can loop back
  traffic, the board is placed in faulty state.

Switch#
```

次の例では、モジュール 6 のオンライン診断結果を表示する方法を示します。

```
Switch# show diagnostic result module 6

Current bootup diagnostic level: minimal
```

```

module 6:   SerialNo : JAB0815059L

Overall Diagnostic Result for module 6 : PASS
Diagnostic level at card bootup: minimal

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

1) linecard-online-diag -----> .
2) online-diag-tdr:

Port  1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
-----
      U  U  .  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U
    
```

Switch#

次の例では、モジュール 6 のオンライン診断結果の詳細を表示する方法を示します。

Switch# **show diagnostic result module 6 detail**

Current bootup diagnostic level: minimal

```

module 6:   SerialNo : JAB0815059L

Overall Diagnostic Result for module 6 : PASS
Diagnostic level at card bootup: minimal

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

-----
1) linecard-online-diag -----> .

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 1
Last test testing type -----> n/a
Last test execution time ----> Jun 01 2009 11:19:36
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Jun 01 2009 11:19:36
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ----> 0
    
```

Slot	Ports	Card Type	Diag Status	Diag Details
6	24	10/100/1000BaseT (RJ45)V, Cisco/IEEE	Passed	None

Detailed Status

```

-----
. = Pass          U = Unknown
L = Loopback failure  S = Stub failure
P = Port failure
E = SEEPROM failure  G = GBIC integrity check failure
    
```

```

Ports 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10 11 12 13 14 15 16
      .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .

Ports 17 18 19 20 21 22 23 24
      .  .  .  .  .  .  .  .
    
```

---

```
2) online-diag-tdr:
```

```
Port  1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
-----
      U  U  .  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U
```

```
Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 1
Last test testing type -----> OnDemand
Last test execution time ----> Jun 03 2009 05:39:00
First test failure time ----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Jun 03 2009 05:39:00
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ---> 0
```

```
Detailed Status
```

```
-----
Interface Speed  Local pair Cable length Remote channel Status
Gi6/3      1Gbps   1-2      N/A      Unknown    Terminated
           3-6      N/A      Unknown    Terminated
           4-5      N/A      Unknown    Terminated
           7-8      N/A      Unknown    Terminated
```

---

```
Switch#
```

## ラインカードオンライン診断

ラインカードオンライン診断テストでは、ラインカード上のすべてのポートが正常に動作していることを確認します。このテストにより、ラインカードの前面パネルポートへのパスに障害があるかどうかを検出できます。テストでは、パス上のどの部分で問題が発生したのかは解明できません。



(注)

---

このテストは、スタブチップを持つラインカードに対してのみ実行されます。

---

ラインカードオンライン診断は、ラインカードの起動時に一度だけ実行されます。ラインカードの挿入時、またはシャーシの電源投入時に、実行できます。

ラインカードオンライン診断は、CPUからラインカードのすべてのポートにパケットを送信することによって実行されます。このパケットはloopbackとマークされているため、CPUはパケットがポートから戻されることを予測します。パケットは、まずスーパーバイザエンジン上のASICに送信され、次にシャーシのバックプレーンおよびラインカード上のスタブチップを経由して、Physical Sublayer (PHY; 物理サブレイヤ)に送信されます。PHYは、同じパスでパケットを返送します。



(注)

---

前面パネルポートでは、パケットの着信および送信は行われません。

---



ラインカードの Return Materials Authorization (RMA) を発行し、TAC に連絡します。ステップ 2 および 3 は省略します。

出力が次のようになる場合があります。

```
module 3:

  Overall diagnostic result: PASS

  Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

  1) linecard-online-diag -----> .
```

メッセージは、ラインカードが最後にシャーシに挿入されたとき、またはスイッチの電源が投入されたときのいずれかで、ラインカードがオンライン診断に合格した ("."としてレポートされる) ことを、意味します。原因を特定するには、追加情報を入手する必要があります。

**ステップ 2** 別のスーパーバイザ エンジン カードを挿入し、ラインカードを再度挿入します。

ラインカードがテストに合格する場合、スーパーバイザ エンジン カードに不具合があります。

スーパーバイザ エンジンの RMA を発行し、TAC に連絡します。ステップ 3 は省略します。

スーパーバイザ エンジン カードではオンライン診断が実行されないため、スーパーバイザ エンジン カードに障害があるかどうかをテストするのに **#show diagnostic module 1** コマンドを使用できません。

**ステップ 3** ラインカードを別のシャーシに再度挿入します。

ラインカードがテストに合格する場合、問題はシャーシに関連しています。

シャーシの RMA を発行して、TAC に連絡します。

## POST 診断

ここでは、次の内容について説明します。

- [「概要」 \(P.59-8\)](#)
- [「POST 結果のサンプル」 \(P.59-9\)](#)
- [「Supervisor Engine V-10GE の POST 結果」 \(P.59-13\)](#)
- [「テスト障害のトラブルシューティング」 \(P.59-19\)](#)

## 概要

すべての Catalyst 4500 シリーズ スイッチでは、スーパーバイザ エンジンが起動すると必ず POST が実行されます。POST は、スーパーバイザ スイッチング エンジン、それに対応するパケットメモリ、およびその他のオンボードのハードウェア コンポーネントの基本的なハードウェア機能についてテストします。スイッチの動作にとってスーパーバイザ エンジンのヘルスは特に重要であるため、POST の結果はスイッチの起動方法に影響を与えます。スイッチは、*marginal* ステートまたは *faulty* ステートで起動する可能性があります。

現在 POST をサポートしているのは、次のスーパーバイザ エンジンです。

- WS-X4014
- WS-X4515
- WS-X4516



- WS-X4516-10GE
- WS-X4013+
- WS-X4013+TS
- WS-X4013+10GE
- WS-C4948G
- WS-C4948G-10GE
- ME-4924-10GE
- WS-X45-SUP6-E
- WS-X45-SUP6L-E

POST 結果は、成功の場合は "." または "Pass"、失敗の場合は "F"、テストされていない場合は "U" と表示されます。

## POST 結果のサンプル

すべてのスーパーバイザ エンジンに対して、POST は CPU、トラフィック、システム、システム メモリ、および機能についてのテストを実行します。

CPU テストでは、POST は使用中のスーパーバイザ SEEPROM、温度センサ、および Ethernet end-of-band channel (EOBC) の適切なアクティビティを検証します。

次に、WS-X4013+TS 以外のすべてのスーパーバイザ エンジン上での CPU サブシステム テストの出力例を示します。

```
[..]
Cpu Subsystem Tests ...
seeprom: . temperature_sensor: . eobc: .
[..]
```

次に、WS-X4013+TS スーパーバイザ エンジン上での CPU サブシステム テストの出力例を示します。

```
[..]
Cpu Subsystem Tests ...
seeprom: . temperature_sensor: .
[..]
```

トラフィック テストでは、POST は CPU からスイッチにパケットを送信します。これらのパケットはスイッチ コア内を数回ループして、スイッチング、およびレイヤ 2 とレイヤ 3 の機能を検証します。ハードウェア障害を的確に切り離すため、ループ バックはスイッチ ポートの内部と外部の両方で行われます。

次に、スーパーバイザ エンジン WS-X4516、WS-X4516-10GE、WS-X4013+10GE、WS-C4948G-10GE 上でのスイッチ ポートのレイヤ 2 トラフィック テストの出力例を示します。

```
Port Traffic: L2 Serdes Loopback ...
0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: .
36: . 37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: .
```

次に、スーパーバイザ エンジン WS-X4013+TS、WS-X4515、WS-X4013+、WS-X4014、WS-C4948G 上でのスイッチ ポートのレイヤ 2 トラフィック テストの出力例を示します。

```
Port Traffic: L2 Serdes Loopback ...
0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
```

```
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31:
```

POST は、スイッチの packets メモリおよびシステム メモリ上でもテストを行います。これらのテストは、1 から昇順で動的に番号が付けられ、それぞれ別のメモリを表します。

次に、システム メモリ テストの出力例を示します。

```
Switch Subsystem Memory ...
 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: . 12: .
13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: . 24: .
25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: . 36: .
37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: . 48: .
49: . 50: . 51: . 52: . 53: . 54: . 55: .
```

また、POST は NetFlow サービス カード (Supervisor Engine IV と Supervisor Engine V) および NetFlow サービス機能 (Supervisor Engine V-10GE) についてもテストします。これらのテストによる障害は、スイッチの機能には影響しないため (NetFlow 機能が使用できなくなる以外)、重要度の低いものとして扱われます。

```
Netflow Services Feature ...
se: . cf: . 52: . 53: . 54: . 55: . 56: . 57: . 58: . 59: . 60: . 61: .
62: . 63: . 64: . 65: .
```



**(注)** Supervisor Engine VI-E は、CPU サブシステム テスト、レイヤ 3 およびレイヤ 2 トラフィック テスト、メモリ テストなど、以前のスーパーバイザ エンジンの POST 機能のほとんどを保持します。冗長システムの冗長ポートはテストされません。すべての POST 診断は、テストを実行しているスーパーバイザ エンジンに対してローカルです。

次に、WS-X4516 スーパーバイザ エンジンに関する出力例を示します。

```
Switch# show diagnostic result module 2 detail

module 2:

Overall diagnostic result: PASS

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

-----

1) supervisor-bootup -----> .

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 1
Last test execution time -----> Jul 20 2005 14:15:52
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Jul 20 2005 14:15:52
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0

Power-On-Self-Test Results for ACTIVE Supervisor

Power-on-self-test for Module 2: WS-X4516
Port/Test Status: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)
Reset Reason: PowerUp RemoteDebug
```

```
Cpu Subsystem Tests ...
```

```

seeprom: . temperature_sensor: . eobc: .

Port Traffic: L2 Serdes Loopback ...
 0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: .
36: . 37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: .

Port Traffic: L2 Asic Loopback ...
 0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: .
36: . 37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: .

Port Traffic: L3 Asic Loopback ...
 0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: .
36: . 37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: .

Switch Subsystem Memory ...
 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: . 12: .
13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: . 24: .
25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: . 36: .
37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: . 48: .
49: . 50: . 51: . 52: . 53: . 54: . 55: .

Module 2 Passed

```

---

```

2) packet-memory-bootup -----> U

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 0
Last test execution time -----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0
packet buffers on free list: 64557 bad: 0 used for ongoing tests: 979

Exhaustive packet memory tests did not run at bootup.
Bootup test results:5
No errors.

```

---

```

3) packet-memory-ongoing -----> U

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 0
Last test execution time -----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
Total failure count -----> 0

```

```

Consecutive failure count -----> 0
packet buffers on free list: 64557 bad: 0 used for ongoing tests: 979

Packet memory errors: 0 0
Current alert level: green
Per 5 seconds in the last minute:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0
Per minute in the last hour:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Per hour in the last day:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0
Per day in the last 30 days:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Direct memory test failures per minute in the last hour:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Potential false positives: 0 0
  Ignored because of rx errors: 0 0
  Ignored because of cdm fifo overrun: 0 0
  Ignored because of oir: 0 0
  Ignored because isl frames received: 0 0
  Ignored during boot: 0 0
  Ignored after writing hw stats: 0 0
  Ignored on high gigaport: 0
Ongoing diag action mode: Normal
Last 1000 Memory Test Failures:
Last 1000 Packet Memory errors:
First 1000 Packet Memory errors:

```

---

```
Switch#
```

次に、WS-X45-SUP6-E スーパーバイザ エンジンに関する出力例を示します。

```
Switch# show diagnostic result module 3 detail
```

```
module 3: SerialNo : XXXXXXXXXXXX
```

```
Overall diagnostic result: PASS
```

```
Test results: (.= Pass, F = Fail, U = Untested)
```

---

```

1) supervisor-bootup ----->
   Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
   Total run count -----> 1
   Last test execution time ----> Oct 01 2007 17:37:04
   First test failure time -----> n/a

```

```

Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Oct 01 2007 17:37:04
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ---> 0
Power-On-Self-Test Results for ACTIVE Supervisor
prod: WS-X45-SUP6-E part: XXXXXXXXXX serial: XXXXXXXXXX
Power-on-self-test for Module 3: WS-X45-SUP6-E
Test Status: (.= Pass, F = Fail, U = Untested)

CPU Subsystem Tests ...
seeprom: Pass

Traffic: L3 Loopback ...
Test Results: Pass

Traffic: L2 Loopback ...
Test Results: Pass

Switching Subsystem Memory ...
Packet Memory Test Results: Pass

Module 3 Passed

```

```

2) linecard-online-diag ----->
Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 1
Last test execution time ----> Oct 01 2007 17:37:04
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Oct 01 2007 17:37:04
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ---> 0

```

Slot	Ports	Card Type	Diag Status	Diag Details
3	6	Sup 6-E 10GE (X2), 1000BaseX (SFP)	Skipped	Packet memory

Detailed Status

```

-----
.= Pass          U = Unknown
L = Loopback failure  S = Stub failure
P = Port failure
E = SEEPROM failure  G = GBIC integrity check failure

```

```

Ports 1  2  3  4  5  6
      .  .  .  .  .  .

```

Switch#

## Supervisor Engine V-10GE の POST 結果

Supervisor Engine V-10GE (WS-X4516-10GE) では、POST は 10 ギガビット ポートの特別な冗長機能についてテストします。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「アクティブ スーパーバイザ エンジン上での POST」 (P.59-14)
- 「アクティブ スーパーバイザ エンジンの POST 結果のサンプル」 (P.59-14)
- 「スタンバイ スーパーバイザ エンジン上での POST」 (P.59-16)
- 「スタンバイ スーパーバイザ エンジンの POST 表示のサンプル」 (P.59-17)

## アクティブ スーパーバイザ エンジン上での POST

アクティブ スーパーバイザ エンジンは、起動時にスタンバイ スーパーバイザ エンジン（存在する場合）上のリモートの冗長 10 ギガビット ポートについてテストします。ポートのステータスは、"Remote TenGigabit Port Status" と表示されます。スタンバイ スーパーバイザ エンジンが存在しない場合は、リモートのポート ステータスは常に "Untested" と表示されます。この状況は、新しいスタンバイ スーパーバイザ エンジンが挿入されたあとも継続します。残りのテストは、ギガビット ポートの設定のみを使用して実施されます。

アクティブ スーパーバイザ エンジンで起動時の診断が完了したあとで、スタンバイ スーパーバイザ エンジンが取り外された場合、総合診断結果内のリモートのポート ステータスは "Untested" に変更されます。

## アクティブ スーパーバイザ エンジンの POST 結果のサンプル

```
Switch# show diagnostic result module 1 detail

module 1:

Overall diagnostic result: PASS

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

-----

1) supervisor-bootup -----> .

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 1
Last test execution time -----> Jul 19 2005 13:28:16
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Jul 19 2005 13:28:16
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0

Power-On-Self-Test Results for ACTIVE Supervisor

Power-on-self-test for Module 1: WS-X4516-10GE
Port/Test Status: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)
Reset Reason: Software/User

Cpu Subsystem Tests ...
seeprom: . temperature_sensor: . eobc: .

Port Traffic: L3 Serdes Loopback ...
0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: .
36: . 37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: .

Local 10GE Port 62: .

Local 10GE Port 63: .
```

```
Port Traffic: L2 Serdes Loopback ...
 0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: .
36: . 37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: .
48: . 49: . 50: . 51: .
```

```
Port Traffic: L2 Asic Loopback ...
 0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: .
36: . 37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: .
48: . 49: . 50: . 51: .
```

```
Switch Subsystem Memory ...
 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: . 12: .
13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: . 24: .
25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: . 36: .
37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: . 48: .
49: . 50: . 51: .
```

```
Netflow Services Feature ...
se: . cf: . 52: . 53: . 54: . 55: . 56: . 57: . 58: . 59: . 60: . 61: .
62: . 63: . 64: . 65: .
```

Module 1 Passed

Remote TenGigabitPort status: Passed

---

```
2) packet-memory-bootup -----> U

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 0
Last test execution time -----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0
packet buffers on free list: 64557 bad: 0 used for ongoing tests: 979
```

```
Exhaustive packet memory tests did not run at bootup.
Bootup test results:5
No errors.
```

---

```
3) packet-memory-ongoing -----> U

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 0
Last test execution time -----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
```

```

Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0
packet buffers on free list: 64557 bad: 0 used for ongoing tests: 979

```

```

Packet memory errors: 0 0
Current alert level: green
Per 5 seconds in the last minute:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0
Per minute in the last hour:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Per hour in the last day:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0
Per day in the last 30 days:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Direct memory test failures per minute in the last hour:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Potential false positives: 0 0
  Ignored because of rx errors: 0 0
  Ignored because of cdm fifo overrun: 0 0
  Ignored because of oir: 0 0
  Ignored because isl frames received: 0 0
  Ignored during boot: 0 0
  Ignored after writing hw stats: 0 0
  Ignored on high gigaport: 0
Ongoing diag action mode: Normal
Last 1000 Memory Test Failures:
Last 1000 Packet Memory errors:
First 1000 Packet Memory errors:

```

---

Switch#

## スタンバイ スーパーバイザ エンジン上での POST

スーパーバイザ エンジンのポート 62 および 63 は、常に "Untested" または "U" のままです。スタンバイ スーパーバイザ エンジンでは、アクティブ スーパーバイザ エンジン上のリモートの 10 ギガビットポートについてテストしないため、スタンバイ スーパーバイザ エンジン上のリモートの 10 ギガビットポート ステータスは常に "Untested" です。スーパーバイザ エンジンは、ギガビットポートの設定を使用して残りのテストを実行します。



(注)

冗長シャーシでは、すでに挿入されているスーパーバイザ エンジンでの並列 POST がサポートされません。ただし、最初のスーパーバイザ エンジンをロード中に 2 番目のスーパーバイザ エンジン挿入すると、最初のスーパーバイザ エンジンは faulty IOS ステートで起動します (POST が打ち切れ、一



部の POST テストがバイパスされます)。この状況は、複数のスーパーバイザ エンジンと同時に起動した場合だけに発生します。先に装着したスーパーバイザ エンジンが POST を実行している間は、空のスーパーバイザ エンジン スロットに追加のスーパーバイザ エンジンを装着しないでください。POST シーケンスが終了すると、"Exiting to ios..." メッセージが表示されます。

## スタンバイ スーパーバイザ エンジンの POST 表示のサンプル

```
Switch# show diagnostic result module 2 detail

module 2:

Overall diagnostic result: PASS

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

-----

1) supervisor-bootup -----> .

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 1
Last test execution time -----> Jul 19 2005 13:29:44
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Jul 19 2005 13:29:44
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0

Power-On-Self-Test Results for ACTIVE Supervisor

Power-on-self-test for Module 2: WS-X4516-10GE
Port/Test Status: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)
Reset Reason: OtherSupervisor Software/User

Cpu Subsystem Tests ...
seeprom: . temperature_sensor: . eobc: .

Port Traffic: L3 Serdes Loopback ...
0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: .
36: . 37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: .

Local 10GE Port 62: U

Local 10GE Port 63: U

Port Traffic: L2 Serdes Loopback ...
0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: .
36: . 37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: .
48: . 49: . 50: . 51: .
```

```
Port Traffic: L2 Asic Loopback ...
 0: . 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: .
12: . 13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: .
24: . 25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: .
36: . 37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: .
48: . 49: . 50: . 51: .
```

```
Switch Subsystem Memory ...
 1: . 2: . 3: . 4: . 5: . 6: . 7: . 8: . 9: . 10: . 11: . 12: .
13: . 14: . 15: . 16: . 17: . 18: . 19: . 20: . 21: . 22: . 23: . 24: .
25: . 26: . 27: . 28: . 29: . 30: . 31: . 32: . 33: . 34: . 35: . 36: .
37: . 38: . 39: . 40: . 41: . 42: . 43: . 44: . 45: . 46: . 47: . 48: .
49: . 50: . 51: .
```

```
Netflow Services Feature ...
se: . cf: . 52: . 53: . 54: . 55: . 56: . 57: . 58: . 59: . 60: . 61: .
62: . 63: . 64: . 65: .
```

Module 2 Passed

Remote TenGigabitPort status: Untested

---

```
2) packet-memory-bootup -----> U
```

```
Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 0
Last test execution time -----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0
```

```
packet buffers on free list: 64557 bad: 0 used for ongoing tests: 979
```

Exhaustive packet memory tests did not run at bootup.

Bootup test results:5

No errors.

---

```
3) packet-memory-ongoing -----> U
```

```
Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 0
Last test execution time -----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count -----> 0
```

```
packet buffers on free list: 64557 bad: 0 used for ongoing tests: 979
```

```

Packet memory errors: 0 0
Current alert level: green
Per 5 seconds in the last minute:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0
Per minute in the last hour:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Per hour in the last day:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0
Per day in the last 30 days:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Direct memory test failures per minute in the last hour:
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
  0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Potential false positives: 0 0
  Ignored because of rx errors: 0 0
  Ignored because of cdm fifo overrun: 0 0
  Ignored because of oir: 0 0
  Ignored because isl frames received: 0 0
  Ignored during boot: 0 0
  Ignored after writing hw stats: 0 0
  Ignored on high gigaport: 0
Ongoing diag action mode: Normal
Last 1000 Memory Test Failures:
Last 1000 Packet Memory errors:
First 1000 Packet Memory errors:

```

---

Switch#



(注)

---

ポートの最大数がテストされたことを確認するには、電源投入時に両方のスーパーバイザ エンジンが存在することを確認します。

---

## テスト障害のトラブルシューティング

すべての POST テストの障害は、スーパーバイザ エンジン上のハードウェアに関する問題を示します。Cisco IOS が限定された機能を使用してスーパーバイザ エンジンを起動することで、ユーザは診断テストの結果を評価および表示できます。障害の原因を特定するには、次のいずれかの手順を実行します。

- ハードウェア障害が継続しているかどうか評価するには、スーパーバイザ エンジンの電源をオフ/オンし、POST テストに戻ります。
- また、シャーシでスーパーバイザ エンジンを取り外し、再度挿入しても、装着が正しいことを確認できます。

詳細は、シスコのカスタマー サポート チームにご連絡ください。

**(注)**

---

冗長シャーシでは、すでに挿入されているスーパーバイザ エンジンでの並列 POST がサポートされません。ただし、最初のスーパーバイザ エンジンをロード中に 2 番目のスーパーバイザ エンジンを挿入すると、最初のスーパーバイザ エンジンは **faulty Cisco IOS** ステートで起動します (POST が打ち切れ、一部の POST テストがバイパスされます)。この状況は、複数のスーパーバイザ エンジンを同時起動した場合だけに発生します。先に装着したスーパーバイザ エンジンが POST を実行している間は、空のスーパーバイザ エンジン スロットに追加のスーパーバイザ エンジンを装着しないでください。POST シーケンスが終了すると、"Exiting to ios..." メッセージが表示されます。

---